■株式のご案内（株主メモ）

事業年度	毎年４月１日から翌年３月31日まで
配当金交付株主確定日	３月31日 ※なお、中間配当の株主確定日は９月30日
単元株式数	1,000株
定時株主総会	６月下旬
定時株主総会における権利行使株主確定日	３月31日
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲1-2-1　みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲1-2-1　みずほ信託銀行株式会社　本店証券代行部

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合（特別口座の場合）
郵便物送付先	お取引の証券会社等になります。	〒168-8507　東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行　証券代行部
電話お問い合わせ先		フリーダイヤル 0120-288-324 （土･日･祝日を除く9:00～17:00）
各種手続お取扱店 （住所変更、株主配当金受取り方法の変更等）		みずほ証券 本店、全国各支店および営業所 プラネットブース（みずほ銀行内の店舗） みずほ信託銀行 本店および全国各支店
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行本店および全国各支店、みずほ銀行本店および全国各支店（みずほ証券では取次のみとなります）	
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・各種手続きお取扱店をご利用ください。	単元未満株式の買取以外の株式売買はできません。

公告方法	電子公告の方法により行う　http://www.kinugawa-rubber.co.jp

Kinugawa Rubber Industrial Co., Ltd.

〒263-0005 千葉県千葉市稲毛区長沼町３３０番地　TEL：043-259-3164（グローバル管理部）FAX: 043-250-2957

URL : http://www.kinugawa-rubber.co.jp/

スピード・変革・チャレンジ

ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC www.fsc.org FSC® C009249

Waterless Printing. Naturally.

Green Power

NIK VOC FREE

KINUGAWA

第76期

株主通信

2014年4月1日～2015年3月31日

鬼怒川ゴム工業株式会社　証券コード：5196

ごあいさつ

株主のみなさまにおかれましては、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。当社グループの第76期株主通信をお届けいたします。

2015年3月期当社グループの連結業績は、米州における新規顧客からの受注の獲得、メキシコ新拠点での生産拡大等により増収となりましたが、国内自動車生産台数の減少や製品構成の変化等により減益となりました。

2015年度につきましては、米州、アジアでの操業度の増加及び、生産性の向上や資材、購入品等の現地化拡大等によるグローバルでの合理化活動により、増収増益を見込んでおります。

当社は昨年の10月に創立75周年を迎えることが出来ましたのも株主を始めとした関係各位の多大なるご支援の賜物であり、厚く御礼申し上げます。今後もグループ運営の質を高め、品質を中心とした更なるレベルアップ等を図り、お客様から信頼され、喜ばれる企業づくりを目指して、グループ一丸となって取組んでいく所存です。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長執行役員
関山定男

■ 今後の目指す姿

顧客提案力、生産準備能力、モノ造り力、マネジメント力の更なる向上を通じて、自主自立型人材育成を行い、目指す姿を実現いたします。

2014

世界各国へ供給可能な27拠点体制へ

3つの構造改革をグローバルに展開

1. 短期収益を上げる
2. 売上を拡大
3. 仕事の質を向上

新規拠点の操業開始

キヌガワメキシコ

キヌガワブラジル

キヌガワロシア

鬼怒川鄭州

2015

「Kinugawa Challenge 2015」

スピード・変革・チャレンジ

拠点運営の質の向上、品質を中心に更なるレベルアップ

2020

お客様から信頼され、喜ばれるNo.1企業へ

モノ造りレベルアップの3つの重点活動を推進

① 拠点・設備立ち上げ
立ち上げ後からスムーズな生産体制をとる事ができます。

国内外の成功事例をグローバル全体で共有し
世界同一基準を実現します！

② 新車立ち上げ
同じ仕組みでチェックしながら進める事で時間や原材料のロスを無くし効率化を図ります。

③ 拠点運営
拠点間のレベルの差を無くすことができます。

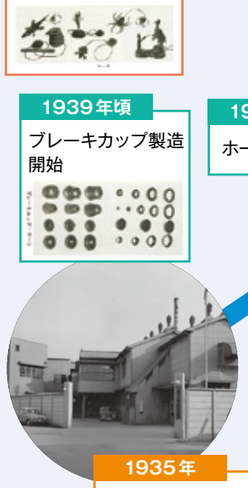
■ 創業から今日までの歩み：製品の移り変わり

創業期のスポンジゴムシートから、戦後復興期の玩具、飛躍期の自動車用部品とKINUGAWAブランドを支える製品群は、移り変わってきました。

創業期 ＞ 戦後復興期 ＞ 飛躍期 ＞ 成熟期 ＞ グローバル拡充期

■ 車体シール部品　■ 防振部品　■ ブレーキ、ホース部品　■ その他

1946年頃
ゴム玩具製造



1939年頃
ブレーキカップ製造開始

1940年
軍需用ゴム
防毒マスクパッキン

1935年
スポンジゴムシート
『キンノブシート』
ダットサン用ドアシール

1965年頃
ホース部品参入

1968年頃
防振部品製造
（世界初インジェクション成形）

1970年
自動車事業への挑戦

1955年
自動車用スポンジ
製品の生産開始

1962年
ゴム製グラスランの
製造開始

1993年頃
FMRゴム
グラスランの開発
（サッシュー体型）

1994年
耐熱防振ゴム材
『プラータ』開発

2000年
自動車事業への基盤

1998年頃
樹脂製グラスランの
製造開始

2010年
樹脂製発泡グラスランの
製造開始

1997年
高圧仕様燃料ホースの
製造開始

2011年
E型カップの
量産化（ESC対応）

2013年
ホース部品の
全リージョン供給

2014年
海外メーカーとの
ENG/MTG
ユニット開発

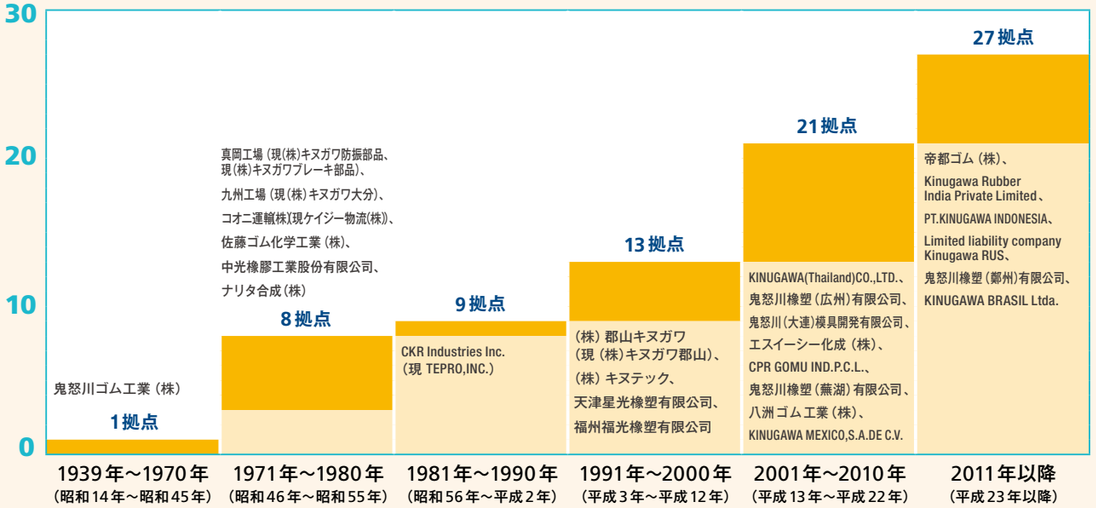
2014年
グラスラン+パテーション+サッシュー体化軽量
製品の製造開始

2020年
真のグローバル企業へ

■ 創業から今日までの歩み：鬼怒川拠点数の変遷

2014年度にロシア、ブラジル、インド、中国鄭州、メキシコ新工場と次々と操業を開始し、現在グローバルに27拠点を展開する自動車部品メーカーへ成長することができました。

【拠点数の変遷グラフ】

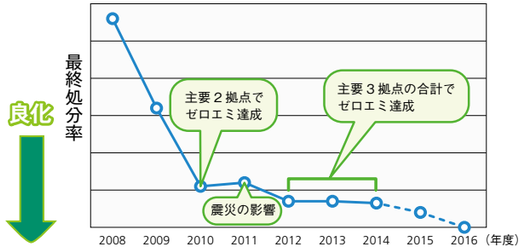


■ 環境への取組み

循環型社会を目指し、産業廃棄物の最終処分量削減に取り組んでおります。

- 2014年度の最終処分率は2013年度同様主要3拠点合計で0.64%（＜1.0%）を維持出来ました。
  2014年度実績：郡山0.0%、大分0.2%、真岡1.5%
- 例）防振ゴムのフリーショット生地、樹脂材料の再利用、バリのサーマルリサイクルなど。
- 各拠点で最終処分率1.0%以下になるよう再利用可能な樹脂化の推進、廃棄物の削減、廃棄物の分別の徹底による再資源化を継続いたします。

最終処分率推移



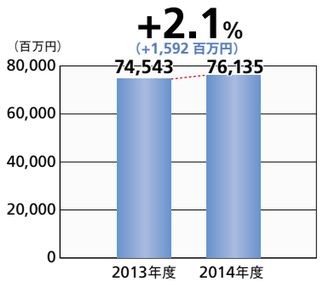
業績の概要

当社グループの主要得意先の自動車生産台数は、前年同期比で国内は約1割の減少、海外は中国が微減、米州が約1割の増加、グローバルでは微増となりました。この結果、当連結会計年度の売上高は、761億3千5百万円（前年同期比2.1%増）となりました。

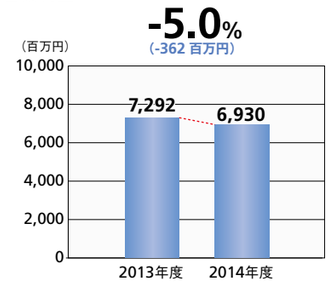
損益につきましては、原材料の現地調達化や生産性向上などにより安定的に収益を生み出す体制が整ってきましたが、日本での生産台数減などにより、営業利益は69億3千万円（前年同期比5.0%減）、経常利益は74億1千9百万円（前年同期比8.2%減）、当期純利益は42億8千9百万円（前年同期比8.6%減）となりました。

■損益計算書

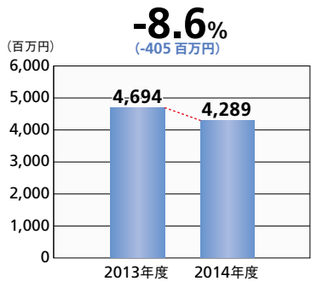
売上高



営業利益

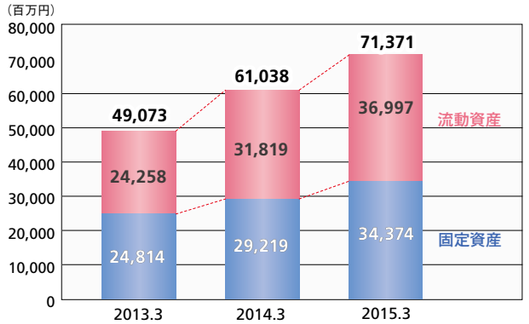


当期純利益

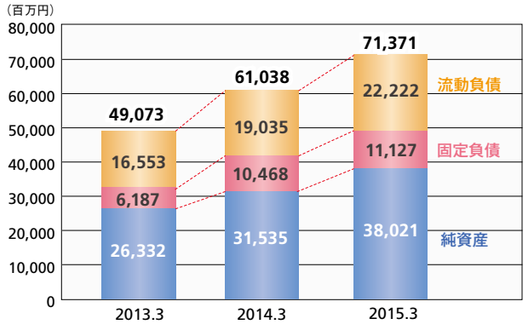


■貸借対照表

資産の部



負債・純資産の部

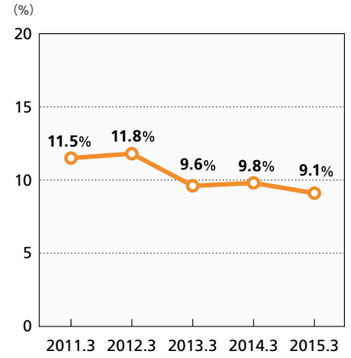


※百万円未満は切り捨て

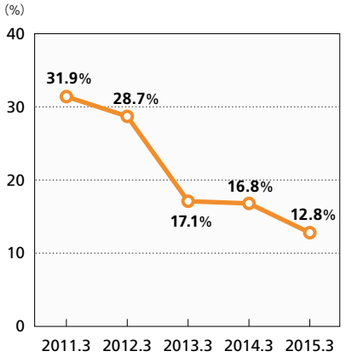
主要経営指標の推移

拠点拡大及び防振・ホース部品のグローバル展開に伴う設備投資などにより有利子負債は増加しましたが、2015年度は米州（アメリカ、メキシコ）での収益向上や中国での売上拡大による利益の増加などにより主要経営指標は改善する見込みです。

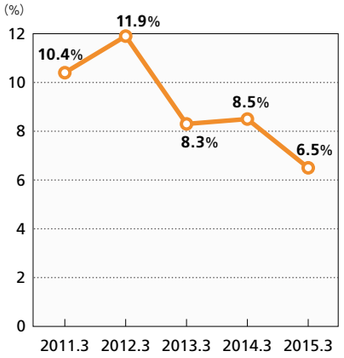
営業利益率



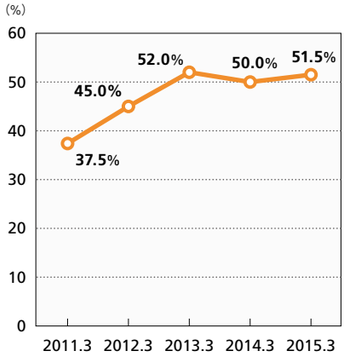
ROE



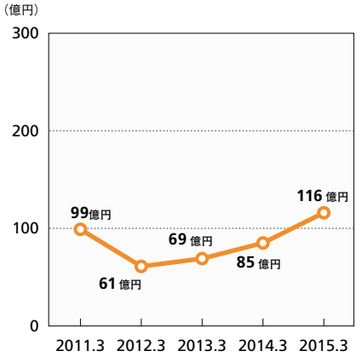
ROA



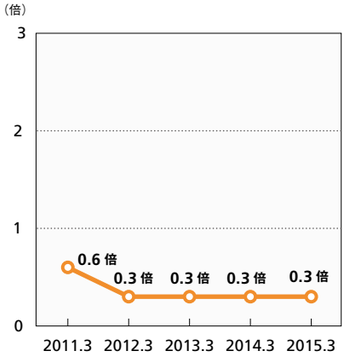
自己資本比率



有利子負債残高



DER



鬼怒川ゴム 創立75周年記念式典を開催

当社は昭和14年10月に東京都平井で創業以来、昨年の10月で75周年を迎えることができました。これもひとえに株主の皆様、お得意様はじめ多くの方々にご愛顧頂いた賜物と感謝しております。
創立75周年を記念して、3月12日に本社玄関前に「記念植樹」を行いました。植樹した「ラカンマキ」は縁起の良い木とされ、弊社が末永く皆様に愛されるよう願いを込めております。
また、同日午後からは千葉市内のホテルにお得意様はじめ200名近くのお客様をお招きし、「創立75周年記念式典」を開催いたしました。冒頭、関山社長から75年の振り返りとお客様への感謝を申し上げ、今後も皆様の期待に応えるべく中長期の展望についてご説明いたしました。
また、ダイヤ精機株式会社（東京都大田区）取締役社長の諏訪貴子氏をお招きし、「諏訪貴子流の新経営計画」と題して記念講演をしていただきました。

VW本社よりお客様が来社

当社ではグローバルでの売上拡大を目指してVW（フォルクスワーゲン）グループへの拡販活動を推進しております。そのような中、昨年10月にはVW（ドイツ本社）様、VWジャパン様をお招きし、プレゼンテーションを行いました。
グローバルに展開しているVWグループとの関係強化になることが期待されています。

千葉科学フェスタにてグランプリ受賞

千葉市主催の科学の祭典『千葉市科学フェスタ2014』に当社が参加・出展しました。
県内の高校や大学をはじめ、民間企業、NPO法人等が参加する、科学・技術を身近に体験できる総合的な科学の祭典で、2012年に続き2度目の参加となりました。
当社のブースは大いに盛り上がり、来場者の投票の結果、過去最高の投票数を得て『ちばSCグランプリ』を受賞しました。

個人投資家向けIRフォーラムに参加

2014年12月7日、JPタワーホール＆カンファレンスにて開催された「日興IR個人投資家フォーラム」に参加しました。当社紹介ブースでは製品紹介の他に当フォーラム向けに作成したオリジナルムービーを放映し多くの投資家様に当社の魅力をアピールするとともに当日実施した当社の説明会では、会場がほぼ満席となり大盛況となりました。説明会では、「中期経営計画の取り組み状況」と「拠点の展開状況」等について関山社長から説明させていただきました。

沿革

1939（昭和14）	鬼怒川護謨工業株式会社創立 （自動車部品その他ゴム製品の製造）
1961（昭和36）	鬼怒川ゴム工業株式会社に商号変更
1962（昭和37）	東京証券取引所市場第二部に上場
1964（昭和39）	本社所在地を千葉市に変更
1971（昭和46）	栃木県真岡市に工場建設（現（株）キヌガワ防振部品、（株）キヌガワブレーキ部品） 台湾台北市に 「中光橡膠工業股份有限公司」設立
1977（昭和52）	大分県中津市に工場建設（現（株）キヌガワ大分）
1978（昭和53）	東京証券取引所市場第一部上場
1985（昭和60）	アメリカ テネシー州ウインチェスター市に 「CKRインダストリーズ（現TEPRO）」設立
1992（平成4）	福島県郡山市に工場建設（現（株）キヌガワ郡山）
1994（平成6）	中国天津市に合弁会社 「天津星光橡塑有限公司」設立
1996（平成8）	中国福州市に 「福州福光橡塑有限公司」設立
1999（平成11）	東洋ゴム工業株式会社と資本・業務提携
2001（平成13）	タイ アユタヤ県に「キヌガワタイランド」設立 国内工場部門を分社化
2004（平成16）	山口県周南市にエスイーシー化成株式会社設立
2005（平成17）	八洲ゴム工業株式会社の経営権取得
2006（平成18）	福州福光橡塑の花都分工場を独立させ 「鬼怒川橡塑（広州）有限公司」設立
2007（平成19）	タイ CPR社を子会社化
2010（平成22）	メキシコ グアナファト州イラプァト市に 「キヌガワメキシコ」設立 中国 大連市に「鬼怒川（大連）模具開発有限公司」設立 中国 蕪湖市に「鬼怒川橡塑（蕪湖）有限公司」設立
2011（平成23）	帝都ゴム株式会社を完全子会社化
2012（平成24）	インドネシア 西ジャワ州に「キヌガワインドネシア」設立 中国 鄭州市に「鬼怒川橡塑（鄭州）有限公司」設立 インド チェンナイ市に「キヌガワインド」設立
2013（平成25）	ロシア イジェフスク市に「キヌガワロシア」設立 ブラジル リオデジャネイロ州レゼンデ市に 「キヌガワブラジル」設立
2014（平成26）	鬼怒川ゴム創立75周年 「キヌガワメキシコ」新工場操業開始

会社概要

2015年3月31日現在

名称	鬼怒川ゴム工業株式会社 Kinugawa Rubber Industrial Co., Ltd.
証券コード	5196
本社所在地	千葉県千葉市稲毛区長沼町330番地 TEL：043-259-3111
設立年月日	1939年10月1日
資本金	5,654百万円
主要な事業内容	自動車用ゴム及び 合成樹脂製品の製造・販売
従業員数（連結）	4,314名
営業所	大阪営業所 大阪府吹田市南金田2-3-26 ファーイースト21 803号 TEL：06-6155-4599

役員体制

役職名	氏名
代表取締役社長執行役員	関山（せきやま） 定男（さだお）
取締役専務執行役員	今林（いまばやし） 功（いさお）
取締役常務執行役員	上津（かみつ） 輝男（てるお）
取締役常務執行役員	中島（なかじま） 俊之（としゆき）
社外取締役	安斉（あんざい） 勉（つとむ）
社外取締役	大高（おおたか） 由紀夫（ゆきお）
常勤監査役	北澤（きたざわ） 浩（ひろし）
監査役（非常勤）	大木（おおき） 宣（あきら）
監査役（非常勤）	山本（やまもと） 正彦（まさひこ）

株式の状況

2015年3月31日現在

発行可能株式総数　160,000,000株
発行済株式総数　67,299,522株（自己株式85,787株）
株主数　4,754名

大株主

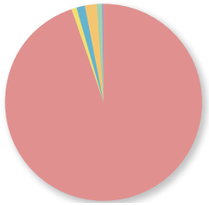
No	株主名	所有株数	比率
1	日産自動車株式会社退職給付信託口座 信託受託者 みずほ信託銀行株式会社 再信託受託者 資産管理 サービス信託銀行株式会社	13,626,665	20.27
2	東洋ゴム工業株式会社	8,000,000	11.90
3	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	3,165,000	4.71
4	BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG	2,276,004	3.39
5	日本生命保険相互会社	1,793,400	2.67
6	株式会社みずほ銀行	1,336,964	1.99
7	日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	1,280,000	1.90
8	NORTHERN TRUST CO.（AVFC）RE FIDELITY FUNDS	1,177,000	1.75
9	CREDIT SUISSE AG ZURICH FOR AIF FUNDS	1,135,000	1.69
10	資産管理サービス信託銀行株式会社（信託B口）	935,000	1.39

（注）比率は自己株式85,787株を控除して計算しております。

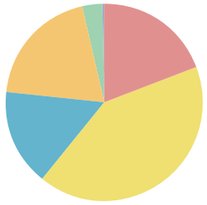
所有者別分布状況・所有株数別分布状況

所有者区分	株主数比率（%）	株式数比率（%）
個人・その他	94.03	14.78
金融機関	0.86	45.64
その他国内法人	1.83	15.89
外国人	2.50	21.33
証券会社	0.76	2.23
自己名義株式	0.02	0.13

株主数比率（%）



株式数比率（%）



	2011.3	2012.3	2013.3	2014.3	2015.3	2016.3（予定）
当期純利益（百万円）	4,467	5,300	3,975	4,694	4,289	5,000
1株当り当期純利益（円）	66.56	79.16	59.13	69.83	63.81	74.39
1株当り配当金（円）	5	6	8	9	10	12